

# 環境保全型農業を推進し、 遊休農地を解消しよう

～学校給食への食材提供の取り組み～

松川町・松川町農業委員会  
ゆうきの里を育てよう連絡協議会

1

令和6年1月15日 令和5年度オーガニックビレッジ全国集会

## 松川町長 北沢秀公

～ 松川愛を大切に ～

松川町では町内の飲食店をよく利用し、自然と多様なネットワークが生まれる町。また地域や団体において、様々な地域づくりや活動が行われ、地元を愛する面白い人がたくさん。町が住民の黒子となり、その活動を支援することで、活発なまちづくりができると感じています。

陸の孤島といわれるこの地域で育つ子供たちが、どこにいてもものびのびと活躍できる環境づくり。町内外の経験豊富な方との交流や、海外の方との交流が当たり前にある町にしたい。

外に出た子どもたちがある時期になったら、やっぱり松川町に帰りたいなと思ってもらえる町にしたい。それぞれが積み上げてきた経験や知識が松川町のチカラにつながるように。

「松川町って面白い、いいよね、こんな環境で子育てしたい」と思ってもらえるまちづくりをしています。



令和5年4月

初登庁・初就任（51歳）

昭和46年 松川町郷原生まれ・原田在住 現在52歳

県立飯田風越高等学校卒業

平成2年より32年間役場の職員として勤務。最も長く在籍した町営の「信州まつかわ温泉清流苑」では、38歳から支配人を令和3年に退職するまでの間務める。

2児の父 趣味はキャンプやスポーツ観戦



令和4年 8/8~10 九州視察研修  
松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会

3



宮崎県綾町：  
薬膳茶防オーガニックごうだ  
綾町役場 有機農業振興係



大分県臼杵市：  
臼杵市役所 有機農業推進室  
臼杵市土づくりセンター



長崎県佐世保市：  
菌ちゃんファーム

みどりの食料システム戦略推進交付金 有機農業産地づくり推進緊急対策事業

# 松川町のデータ

4



東京 (TOKYO) まで高速バスで3時間30分  
名古屋 (NAGOYA) まで高速バスで2時間

松川町は、長野県南部の下伊那郡の最北、伊那谷のほぼ中央に位置し、東西約21km、南北約6kmで、総面積72.79km<sup>2</sup>。

役場の位置	
海拔	542.33m
緯度	35° 35' 50"
経度	137° 54' 35"
地番号	元大島3823

# 松川町のデータ

5

中央道周辺  
果樹園地帯



長野県

松川町



天竜川流域  
水田地帯



松川インター

天竜川

松川町

中央道

国道153号線

町の中央を天竜川が北から南へ流れ、川の東西に段丘が形成され、東側には工業団地と水田地帯が、傾斜地では、水稻、畜産、小梅の栽培などが行われている。西側は、水田地帯から住宅地、商店街、工業団地が開け、梨、りんごなどの果樹栽培が盛ん。

## 松川町のデータ

総人口	12,666人	*1⇒	12,318人	① ⇒	12,231人	⑤
世帯数	4,442世帯	*1⇒	4,470世帯	① ⇒	4,484世帯	⑤
農業就業人口	1,459人	*2⇒	1,066人	②		
農地面積	1,384ha	*3⇒	1,321ha	③		
農振農用地	943ha	*4⇒	942ha	④		
遊休農地面積	235.5ha	*3⇒	239ha	③ ⇒	170ha	⑥
経営農地面積	748ha	*2⇒	625ha	②		

\*1松川町調査数字(2019年10月1日現在) ①(2022年6月1日現在) ⑤(2023.4.1現在)

\*2 農林業センサス(2015年) ②(2020年)

\*3 松川町農業委員会による利用状況調査(2018年11月) ③(2021年11月) ⑥(2022年11月)

\*4 松川町集計(2019年2月7日許可最終) ④(2021年9月8日許可最終)

## ① 松川町の農業・農地の現状

# 遊休農地対策として

- 新規就農者の受け入れ支援     ～果樹研修制度～
- 新規法人参入の支援     9件の農地所有適格法人の内、  
6件が果樹栽培を中心に行っている
- 労働力の補完     シルバー人材センター、ワーキングホリデー
- 農地の集積・集約化
- 農地の斡旋、マッチングによる流動化  
農地相談員を設置し、情報収集及び売買、賃貸借の支援



## 松川町オーガニックビレッジ宣言

大切なのは人



- 町民の皆さんと一緒に環境保全型農業への取り組みをすすめます。
- 持続可能な農業、持続可能な暮らしを目指し、町の活力・魅力をUPします。
- ゆうきの里としての成長とともに、子どもたちの健やかな成長を目指します。

令和5年3月6日

松川町では、世界的な新型コロナウイルスによる影響、また異常気象での農作物への自然災害など、自然環境を強く意識する状況下において、令和元年から、遊休農地を活かす取り組みとして、環境保全型農業（農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業）に取り組んでいます。

環境保全型農業の取組みとしては、ここ数年で取り組んできた学校給食への※1有機食材の提供と、100年以上、産地として続く「くだものの里」の果樹栽培でも、長年取り組みが行われてきています。

近年、科学的にも解明されてきた栽培技術や育土、植物の成長等について、さらなる探求を高め、松川町の農産物のブランド化と、担い手の育成、暮らしやすい地域づくりを進めていきます。

※1有機農産物とは、農薬や化学肥料を使わず、遺伝子組み換え技術を使用せず、環境への負荷をできる限り低減した農産物で有機JAS規格を取得したものですが、学校給食への提供する農産物すべてが有機JAS規格を取得しているわけではありませんが、ここではあえて有機農産物と表記しています。



## 地域に内在する資源・・・遊休農地は地域の宝！

大切なのは人

松川町第5次総合計画では

1. 持続可能な地域づくり、
2. 4つのキーワード

(自治・学び・地域に内在する資源・総合的な地域理解)を掲げ、町づくりを進める。

遊休農地を厄介者にせず、活かしてこそ、持続可能な地域づくり。

将来に続ける一つの取り組みとして、活動を開始。

「非農家及び保護者等による有機農業の推進を行い、遊休農地の解消につなげるとともに、学校給食への提供等、地産地消の促進を目指します」



アドバイザー吉田太郎氏

令和2年12月

松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会 発足

松川町の豊かな自然や気候風土の保全・再生のために、環境保全型農業を推進するとともに、松川町産有機食材を活用した子どもたちの食事（給食）を推進し、もって松川町の農業振興と子どもたちの健康で豊かな食生活の実現に寄与することを目的とする。



生産者、栄養士、学校関係者、商工会、JA、県、町等が集まり、話し合いが始まりました

# 野菜、お米の有機栽培研修会の実施



コンジーン

太陽熱マルチをした後に播種。太陽熱マルチは夏に効果あり（春は温度が低い）



ジャガ 任

リンゴの絞りカスをたい肥に利用。



タネネギ

育土のため、緑肥を育て、漉き込み。漉き込んだ後、太陽熱マルチを実施



カメ

水管理、土引き圃場の水平を保つ。最初に雑草の発芽を促し、出たところで、代掻きをして田植えを行う。



ネギ

インセクティ-プラントとしてのマリーゴールド・ソルゴー。ネギにつく虫の天敵の住処とする。

# 学校給食への食材提供（実証圃場で栽培されたもの等）

オーガニック給食の日（試食会を実施） R5.11.16中央小



11



ゆうき給食とどけ隊の皆さんのお米や野菜、長野県内の食材や調味料、環境にやさしい食材を使った給食です。久保田さんのお米ともち麦のご飯。牛久保さんの里いも、大根、人参、寺沢さんの長ネギを使った煮干し出汁のおいしい味噌汁。牛久保さんのサツマイモ、にんじん、寺沢さんのネギを使った給食室オリジナルカレーコロッケ。牛久保さんの人参とはっぱを使った甘酢和え。

# 学校給食での利用率

種類	H30 年間使用量	R2食材	利用率	R3食材使用量	利用率	R4. 食材	利用率
じゃがいも	2,480kg	612kg	24.67%	↓ 346kg	13.97%	635kg ↑	25.60
にんじん	3,183kg	224kg	7.03%	↑ 1,277kg	40.11%	1,844kg ↑	57.93
長ネギ	1,067kg	507kg	47.51%	↓ 482kg	45.17%	351kg ↓	32.89
お米	R1 13,516kg	540kg	3.99%	↑ 2,520kg	18.64%	2,520kg =	18.64
玉ねぎ	4,450kg	0	0%	↑ 662kg	14.88%	1,065kg ↑	23.93
計	24,696kg	1,883	7.62%	↑ 5,287Kg	21.40%	6,415kg	25.97

# 給食での利用率

令和4年度 松川町の小中学校での学校給食の取組（実績）

	児童数	有機米導入日数	有機野菜の導入日数	利用日数率	地場産物の利用率
中央小	536名	29 / 162日	130 / 200日	65%	6月.11月に調査
北小	104名	29 / 160日	99 / 199日	49.7%	
中学校	365名	29 / 170日	123 / 200日	61.5%	
計	1,005名	29 / 164日	117 / 199日	58.7%	町内産 27.55% 県内産 47.66% 国内産 100 %

13

## R3地産地消補助の実績

	慣行米3割	有機米7割	有機野菜4割	合計 円
中学校	416,196	320,751	137,470	874,417
中央小	553,455	398,937	253,300	1,205,692
北小	117,918	87,064	44,990	249,972
合計	1,087,569	806,752	435,760	2,330,081

## R4地産地消補助の実績

	慣行米3割	有機米7割	有機野菜4割	合計 円
中学校	396,792	310,569	178,600	885,961
中央小	509,355	426,489	343,990	1,279,834
北小	105,732	90,321	42,750	238,803
合計	1,011,879	827,379	565,340	2,404,598

## 小学校でのゆうき普及活動



菌ちゃん先生講演会（北小3.4年生）



ゆうきの土づくりでサツマイモの栽培体験（中央1年）



中央小給食委員によるニンジン圃場の取材

大豆の栽培方法について  
レクチャー（中央2年）



## 環境調査の実施（慣行農法の田んぼと有機農法の田んぼの比較）



# 栽培実証圃場での研修会 & 指導者育成講習会



16

南信州農業農村支援センターでの雑草調査

## 遊休農地対策 と 松川町の環境保全型農業の取組

令和5年10月17日設立

一般社団法人 グリーンみらい・まつかわ

1. 耕作放棄農地を借り受け、地域利用計画を策定（モデル地域での取り組み）
2. 年間の農地管理（2年後の受け手が決まっている場合に限り実施、果樹研修生を想定）
3. 農作業受託（乗用モア及びハンマーモアでの草刈り等）

17

- ※ 令和10年度末までの目標（遊休農地解消50ヘクタール）
- ※ 緑肥の栽培を行い、農地の肥沃化を実施。



## 松川町ゆうき給食とどけ隊の思い

環境保全型農業を推進し、子どもたちのために、安全なお米や野菜を届けたいと、有志が集まり、**化学肥料、農薬をなるべく使わない**農業をしようと進めてきました。

育土を学ぶことにより、「**農薬を使わないから安全**」という考え方や、「**有機栽培だから虫がいる**」、「**虫に食べられる野菜はおいしい**」は、**違う**ということに気づきました。

元気な土で育ったお米や野菜が元気になり、虫や病気も寄ってこないため、「**化学肥料、農薬を使わない**」ではなく、**「使わなくても大丈夫」**な農産物になります。

この経験値を実証圃場研修会で継続して学び、栽培に活かし、生産量や質の良さに繋がります。環境にやさしい持続可能な農業を学び、実践し始めたところです。今後、より多くの有機の農産物を学校給食に提供していきたくらと思っています。

ゆうき給食とどけ隊 令和2年8月結成



# ゆうき給食づくり隊の思い

コロナ禍 令和2年3月、小中学校は一斉休校・  
休校・調理の仕事はない。どうしたらよい？  
4月、新学期は通常に戻れる？

子供たちのため、  
衛生管理も含めて  
「給食」のことを考え⇒  
てみよう  
新たに有機の食材の  
栽培も始まった

- 松川町を自分たちで書いてみる
- 実証圃場を探してみる
- 栽培農家さんにインタビューする
- 栽培野菜について調べる

↓  
すべてをマップに入れてのせる！  
そして児童に知ってもらおう！

ゆうき給食とどけ隊  
の思いを伝えられる、  
オリジナル新メ  
ニュー  
作っちゃお！

自分たちが学べる  
場所がほしい！

ここで、自分たちだけが給食を作っ  
ているのではなく、多くの方々に支えら  
れ仕事ができていることを実感する。

令和5年4月結成

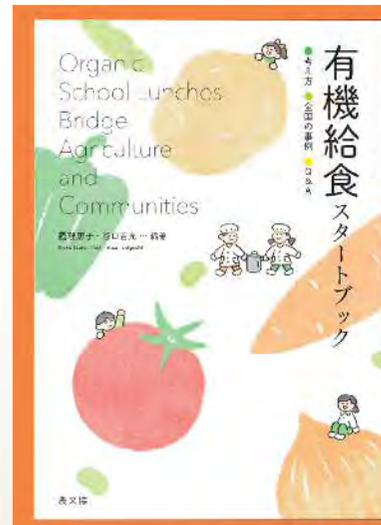


令和5年7月28日、夏休みの期間を活用し、  
C P P フランスの皆さんをお迎えして研修会を実施。



栄養士・搬入事業者・生産者 みんな一緒に

～以上です。ありがとうございました～



農文協発行  
有機給食  
スタートブック  
(2023.4.4)



農文協発行  
季刊地域 50号・55号  
(2022.7.5) (2023.11.1)



創森社発行  
有機農業  
～これまで・これから～  
著者 小口広太氏  
(2023.10)

アジア太平洋  
資料センター  
PARC制作 (2022)

